

○審査総評

1次審査では、7者からの参加表明書の提出があり、事務所の評価（53点）、配置予定技術者の資格及び技術力等の評価（37点）の合計（90点）を益城町複合施設建設設計者選定審査委員会（以下「選定審査委員会」という）にて、実施要領及び評価要領等に基づき、審査を行った。その結果、参加表明のあった7者のうち点数上位5者をプレゼンテーション及びヒアリング審査対象者に決定した。

2次審査では、提出された技術提案書に基づく20分間のプレゼンテーション及び25分間のヒアリングを行い、「業務の実施方針（40点）」、「課題1.すべての利用者にやさしく、経済性に優れた施設（50点）」、「課題2.災害に強く、災害を学べる施設（50点）」、「課題3.周辺環境と調和し、多様性に柔軟な施設（50点）」の提案について、評価要領に基づいた評価基準に則り、厳正かつ公正な採点を行った。その採点結果と上述した1次審査結果及び参考見積金額に対する評価結果（20点）を合計した結果（300点満点）により、最優秀者と優秀者を決定した。

最優秀者に決定したA者による提案は、「人があつまり、まじわり未来をつくる場」と題し、基本的な考え方としてそれぞれの課題ごとに「すべてのひとにとって使いやすく、多様な使い方ができ、永く使い続けることのできる施設づくり」、「災害に万全に備え、人々を受け入れられる安全・安心な施設づくり」、「まちの活性化に貢献し、人々の活動と交流のシンボルとなる施設づくり」を掲げ、考え方や提案構成の明快さが印象的であった。

具体的には、回遊性のある交流スペース「まじきプラザ」という中庭を建物中心部に設け、人々が快適に過ごせる憩いの場の創出や、中庭を活かした施設稼働と安全対策、「まじきプラザ」を活用したあらゆる活動について共有した情報発信を行う場所として、施設全体や地域をつなぐことが提案された。中庭を中心とした交流を促進する魅力ある空間づくりを行うという提案が、多目的ホールやプレイルーム、調理室とのつながりから多世代の多様な交流を育むという観点において選定審査委員会から高い評価を得た。また課題2に関しては、熊本地震の経験を踏まえた構造計画、平常時から、災害初動期、災害安定期・復旧期までの防災拠点の考え方、高い利便性を備えた空間構成、実効性の高い環境技術の提案など、バランスのとれた提案がなされ、的確性や実現性を感じさせるものであった。加えて「健康・文化・防災のネットワーク」として、町全体の地域連携ネットワークマップを用い、既存の公共施設との回遊性を生む空間の提案が、複合施設とまちとの距離感を近づけ、町民や来町者にとって復興のシンボルとなりうるものであろうと評価され、ほぼ全ての評価項目において、高い評価点数を獲得した。

その一方、シンボリックに設計された屋根形状の溜まり部分が、今後のメンテナンスや雨漏り対策の点で難があるのではないか等の懸念も指摘され、将来を見据えた設計という観点及び周辺環境との調和という点でさらなる検討が望まれる。

優秀者に決定した D 者による提案は、「交流と防災の拠点をつくり『益城モデル』として発信できる施設をつくる」を掲げ、A 者と同様に明快な実施方針とそれに基づく具体的な構造及び環境計画などが的確かつ、きめ細やかに提案され、バランスの取れた総合性において高い評価を得た。特に避難所として分かりやすい施設として、災害対応時の明確な施設敷地のゾーニング計画は目を引くものであった。

その一方で、建物全体を東側に配置した計画について、真夏の西日対策や台風等の西風対策という観点から施設のランニングコストが嵩むのではないかという点が指摘され、2 次審査での点数が伸びず、1 次審査結果と合算した総合点数は僅差ではあったが惜しくも最優秀者には届かなかった。

その他は発表順に、B 者は敷地の真ん中に建物を配置し、南北に駐車場を設ける配置計画と、建物各所に光庭を設け、わかりやすく、使いやすい配置計画、耐震強度に係る重要度係数 1.5 を提案された。「建物の耐震性の確保」や「施設機能の継続性の確保」という評価項目では高く評価されたが、「多様な利用者への配慮」や「明快なゾーニング計画」、そして「多世代の交流を育む施設」といった複合化したことによる施設メリットを十分に活かせるのかという点が指摘され、かつ増築スペースとして光庭を活用するという建物メリットを失くしてしまう提案に対し、検討の余地が感じられた。

C 者による「『地域を結び将来の発展を目指す地域づくりの拠点』を実現する『(仮) ましきキッチン』」の提案は独創性が高く、「コの字」を象った施設形状と中庭を活用した多世代の交流を生む施設計画は多くの審査委員から高い評価を受けた。課題に関しても、「建物の長寿命化計画」、「施設機能の継続性の確保」、「多世代の交流を育む施設」、「周辺環境との調和」という評価項目では、2 次審査において、A 者よりも高い点数を獲得し、2 次審査における評価は最優秀者を獲得した A 者とほぼ変わらない点数であった。しかしながら、1 次審査の得点との合計により、総合的には最優秀者、優秀者に及ばない結果となった。

E 者による「人にやさしく」というコンセプトをもった提案は、施設形状を五角形としたユニークなものであり、「ウメ広場」と称された開放感のある交流スペースは、フレキシブルに多目的室や研修室、被災経験伝承スペースとして活用できる空間構成が目を引いた。特に、「防災を学べる施設」という観点では選定審査委員会から高く評価を受けた。その一方、五角形ゆえの出入口が多様になるセキュリティ対策や「ウメ広場」を活用しきれない空間、「建物の耐震性の確保」、「施設機能の継続性の確保」、「将来の変化に対応できる施設」という評価項目で、いくつかの課題が見受けられた。

以上が選定審査委員会による審査総評である。

令和 2 年（2020 年）6 月 27 日

益城町複合施設建設設計者選定審査委員会